

■正田篠枝 歌人。GHQ禁止を超えて原爆歌集「さんげ」秘密出版，原水爆禁止を訴え続けるも，後遺症の癌で没した。

しょうだしのえ

韓国併合・・・1910＝ 広島県安芸郡江田島村で，代々製粉業を営む正田逸蔵・リハの長女に生まれる。名はシノエ。

明治天皇没・1912＝ 2歳：

本格政党内閣1918＝ 8歳：母が死去したため，

べんしん条約・1919＝ 9歳：

大暴落・・・1920＝10歳：一家で広島市に移住。父は船舶エンジンの製造・修理工場や鉄工場を経営。

原敬首相暗殺1921＝11歳：

治安維持法・1925＝15歳：大手町小学校高等科を卒業し，安芸高等女学校に入学。

真宗安芸婦人会が母体となって設立された女学校で，人生観に大きな影響を与えられる。

共産党事件・1928＝18歳：卒業，研究科に進み，

世界恐慌・・・1929＝19歳：卒業。父の仕事を手伝う傍ら_短歌誌{に投稿を始め，{短歌至上主義}主宰の杉浦翠子に師事。

満州事変・・・1931＝21歳：高本末松と結婚し，

帝人疑獄事件1934＝24歳：長男楨一郎を出産したが，

日中戦争始・1937＝27歳：

大政翼賛会・1940＝30歳：夫が病死。

日米開戦・・・1941＝31歳：

第2次大戦末期には実家が人間魚雷を作っていた。

敗戦・・・1945＝35歳：*建物疎開で自宅取り壊しとなり，平野町に移住。長男が山県郡に疎開中，原爆投下，自宅で父とともに被爆し，家業に使う小船で宮島口の別荘に逃げた。それ以後，見聞した非惨な風景を短歌に詠んだ。原爆犠牲者に懺悔する願いをこめて「さんげ」と題したが，占領軍検閲のため出版許可がとれず，

新憲法公布・1946＝36歳：師の杉浦翠子が主宰短歌誌{不死鳥}に，「埃！原子爆弾」と題して39首を発表。

新憲法施行・1947＝37歳：*これらをもとに，最初の本格的な原爆歌集「さんげ」を自費出版，弟の誠一はかつて自分の論文についてアメリカ陸軍防諜部隊の厳しい取り調べを受けた過去があるため，死刑も免れないと忠告したが，意志は固く，引き受ける印刷所がなかったため，印刷は広島刑務所で行なわれた。同刑務所の印刷主任を務めていた司法技官中丸忠雄も歌の内容を見て驚き，「GHQに知れたら殺される」と忠告したものの，熱意に負けて出版を引き受け，被爆者にのみ秘密裏に配布という条件のもと，150部のみ印刷。随一の稀覯本となっている。

極東裁判決・1948＝38歳：再婚し，

朝鮮戦争始・1950＝40歳：2人目の子俊郎を出産したが，

独立回復・・・1951＝41歳：父が胃癌で死去後，俊郎を夫に渡して，離婚。

メーデー事件・1952＝42歳：父の治療費の返済や生活費のために平野町の自宅で割烹旅館を開業するも，

テレビ放送始・1953＝43歳：原爆傷害調査委員会の検査により癌の徴候が確認される。

55年体制始・1955＝45歳：

国連加盟・・・1956＝46歳：都市計画法実施で建物後退余儀なくされ，改築して，学生下宿に転業。

原爆症の後遺症が現れ，原爆病院へ入退院を繰り返す身となるなか，

美智子妃・・・1959＝51歳：第5回原水爆禁止世界大会に参加。_栗原貞子・前田とみ子らと{原水爆禁止広島母の会}を結成し，

安保闘争・・・1960＝50歳：師杉浦翠子が死去。

タイタイ病始・1961＝51歳：_創刊された機関紙{ひろしまの河}に，短歌と随筆を寄稿。11号まで発表続ける。

全国総合計画1962＝52歳：*「日本テレビ」の原爆特集番組に出演。「さんげ」再録およびその後の新作，童話や闘病の記録を加えた「耳鳴り-原爆歌人の手記」を，岩波書店や筑摩書房に断られ続けた末，平凡社から出版。乳癌で余命を宣告され，_原水爆禁止世界大会の内部分裂の影響を受けて，{広島母の会}も分裂し，苦悩するなか，30万名号念仏を始め，余命を過ぎても生き続け，

東京リビウ 1964＝54歳：

大学紛争始・1965＝55歳：*成就。NHKで{ある人生 - 耳鳴り}と題して放映され，多くの視聴者に感動を与える一方，被爆20周年にあたって広島詩集編纂委員会が全国から詩を募集すると，原水爆禁止広島母の会の内部分裂に憤りと悲しみをぶつけた詩「罪人」を応募して，没した。